

恋をよふの名は下を起あつ田川
くくら無水結分もさる水知何や奈く袖成ぬ
ら舞却下を軍世う玉乃緒の奈あう平
き品何物持海忠何まの志手梅乃志と
一算小む
あつてはらふとの理のねをけい
とや
恒の記を能をなす持多氣
信のよきや
空の麗
神はの何や是る海津向津油乃
如持の持
濡き
とのおもふ
つこの海
の志成
見せ
や
以てに山城結むつ田の澄平
一と傳
ゆと
志ほ
あ、
麻忠
なき
あ
ら
母

室所の以世行いせらる 龍田川恋の唱歌

明治三十三年十月三十日 喜 梅齋居士源



恋をふつと名は下を記あつ田川 只ら無水終 分るる水無く何や奈く袖はぬけ
ら舞舞下を舞世う玉乃緒の奈ありつ年を分何終は 海忠何事の志手梅乃志と一算ふむ
高つてはらふと何記の物をけいといとや 何の初る能きを何持 高を何何よりまきやい麗
袖はの何や是う清浄何油乃 何終の何 溜せ 何の何ふつこの海何の何終見せや
以てに山城終むつ田の澄平一を侍ゆとて 志何何、麻忠を何何母

室所の以世行いせくる 龍田川恋の唱歌
明治三十九年十月三十日 喜 梅庵居士源



人

源
子
方



...
...
...
...
...

...
...
...
...
...
...
...

...
...
...
...
...
...
...

